

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 豊中市立第十三中学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例：小中高一貫)
所在地 〒 560 - 0055 ※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む
大阪府豊中市柴原町 2-14-1
E-mail jh13@tss.toyonaka-osa.ed.jp
Website http://www.toyonaka-osa.ed.jp/cms/jh13/
幼児児童生徒数 男子 319 名 女子 296 名 合計 615 名
幼児・児童・生徒の年齢 13 歳～15 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

当校は、「日常の大切さ」を学校理念として、ESD を『学校教育活動の日常』と捉え、ESD の実践を通して子どもたちの自主性、創造性、相互尊重の育成を目標とした。

具体的には、教科の授業や総合的な学習の時間、生徒会活動、学校行事等を柱に、①環境教育に係わる活動、②国際理解教育に係わる取り組み、③人権教育に係わる学習、④防災教育に係わる学習を行った。

① 環境教育に係わる活動

生徒会執行部主導による定期的な (年 2 回) クリーン活動を行っている。自分たちの学習環境を整えるという目的のもと、普段の清掃では手が行き届かない箇所を中心に清掃を行っている。活動に参加する生徒は有志である。

② 国際理解に係わる教育

各学年で取り組み内容は異なるが、年度初めに計画をした内容に取り組んでいる。特に第一学年においては、とよなか交際交流センターと連携をし、複数の国々と交流を持っている。事前に調べ学習をしたうえで、大学への留学生である講師の方々と交流をし、異文化理解を深めた。同時に自国や地元への興味関心が高められる活動であるため、自己を理解し、他者を理解するための活動という位置づけでもある。

③ 人権教育に係わる学習

ジェンダーに関する講演で、性の多様性についての学習を行った。思春期を迎える子どもたちにとって、関心の高い項目である様子であった。自分についての性や恋愛についての性など、多様な性の在り方を知ること、多様性を受け入れる意識付けのきっかけとなった。

男女共生教育として、自己愛についての講演があった。在日コリアン（三世）の方の体験の話（自己嫌悪や自己愛についての話）を通して、自分を大切にすることを学んだ。自己の人権学習の機会であり、自己肯定感を高められる機会であるというねらいを持って、企画された取り組みである。

④ 防災教育に係わる学習

年に2回の避難訓練の機会を利用して、関連したことがらについての学習を進めている。今年度は、地震を想定した避難訓練において、阪神淡路大震災での地元である豊中市の被害などの話があった。現状からは想像できないほどの状態であったため、長年にわたり復興してきたことを実感できた様子であった。この取り組みは、持続可能性を感じることをねらいとした。東日本大震災や熊本大地震などで、まだ復興に時間がかかる地域についても、持続可能性があることへの意識付けにもなったようであった。

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input checked="" type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input checked="" type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input checked="" type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

年度初めにユネスコスクール加盟校として全教職員、全校生徒に周知し、学校教育活動を進めていくうえで、教科を超えて横断的に行う授業づくりや総合的な学習の時間で年間計画を立てている。また修学旅行やキャンプなど行事のなかで ESD を推し進めている。

各学年国際理解教育、環境教育、人権教育など年間計画をたてて、企画運営とともに世界の課題と本校の現状と課題そして今後について協議して取り組んでいる。

生徒会活動において ESD の観点からできることを協議検討してできることから推し進めている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

- ・ 生徒会執行部主催による定期的なクリーン活動
- ・ 支援教室主導による人権教育（男女共生教育）
- ・ 保健委員会主導による定期的なトイレの石鹸、芳香剤等の設置
- ・ 人権教育推進委員会が主体となった国際理解教育

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

とりあげて何かを行っていくわけではないが、日常的に行われている活動を振り返り、ESD が自分の身の回りについて回っていることを全校生徒に周知している。それにより、個々の意識は少しずつ変わりつつあるが、完全に意識が変わるというまでには至っていない。学校評議員会や地域の集まり等で情報交換をして評価を仰いでいる。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

本市の ASP ネットワーク会議等で本校の取り組みやユネスコスクール全国大会の報告をすることで、他校との交流が少しずつ持てるようになってきた。また、地域諸団体や校区の小学校や高校とも情報交換ができるようになってきた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

・国際理解教育を進めていくうえで、とよなか国際交流センターと連携し複数の外国籍の方々を招聘して、その国の持つ文化や習慣を学んでいる。
・JICA に依頼して世界の事情などを話してくれる講師を招聘している。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

全国ユネスコスクール大会で知り合えた学校と新たに連絡を取り、お互いの取り組みを紹介し合うなどして自校の取り組みに反映させているところである。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

・小中連携及び地域連携が活発になってきた。
・PTA 活動において保護者の理解と協力が得られるようになってきた。
・海外事情や外国人講師を招聘するなど国際理解教育をすすめることで、子どもたちの世界に向ける意識がキャリア教育を通じても変わってきている。

(3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

- ① 国際理解教育：各学年で計画立案し、実施していく。
② 人権教育：社会の授業や道徳の授業とも併せながら各学年で取り組んでいく。
③ 環境教育：家庭科や理科の授業とともに横断的に進めていく。また生徒会活動主催のクリーン活動等も取り組んでいく。
④ 防災教育：年 2 回の避難訓練をはじめ、Jアラートなどとっさのときの行動のとり方を体育の集団行動の中でも教えつつ進めていく。また、地域とタイアップして、防災訓練を継続していく。
⑤ 校区の小学校や高校と連携し、里山について学んでいく。